

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
成人看護学概論	1 単位(30)	1 年次7月	専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

- 1 成人の成長発達の特徴と社会における成人の役割が理解できる。
- 2 成人における健康問題の特徴と予防が理解できる。
- 3 成人の健康レベルに対応した看護が理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
成人の特徴	1 成人の成長発達の特徴と社会における成人の役割が理解できる	1 成人期の特徴 <3回 6h> 1) 成人期の発達段階と発達課題(エリクソン、他) 2) 成人の生涯発達の特徴(青年期・壮年期・向老期) (1) 身体的・心理的・社会的変化の特徴と健康問題 3) 成人と生活 (1) 労働の実態と社会状況 (2) 家族の形態と機能、家族の課題 2 健康に関する指標 <1回 2h> 1) 人口統計(平均寿命、死因別死亡率、有病率、受療率 等)	更年期障害
成人の健康問題の特徴と看護	2 成人期に見られる健康問題とその予防が理解できる	1 健康保持のための保健対策 <2回 4h> 1) 生活習慣病予防と対策(健康日本21、新健康フロンティア戦略) 2) 疾病対策(がん対策基本法、特定健康診査、特定保健指導) 3) 労働衛生対策(職業性疾病対策・メンタルヘルス) 4) 学校保健 5) 地域保健 2 成人特有の健康問題 <4回 8h> 1) 生活習慣病の原因(関連要因と経過) (1) 食生活 (2) 喫煙 (3) 飲酒 (4) 性感染症 (5) 運動不足 (6) 肥満 (7) 生活環境衛生 3 職業に関連する健康問題 4 成人の生活ストレスに関連する健康問題 5 ヘルスプロモーションを促進する看護	
成人に有用な看護	3 成人の看護に有用な理論が理解できる	1 健康危機状況における看護 <4回 8h> 1) 危機理論 2) ストレス・コーピング 2 セルフマネジメントに向けての看護 1) アンドラゴジー 2) セルフケア理論 3) 病みの軌跡 4) エンパワーメント 5) アドヒアランス 6) 自己効力 3 セルフケア再獲得に向けての看護 1) 障害の受容過程 4 緩和ケアを必要とする人の看護 1) 死の受容過程	
			【評価】 筆記試験(1h) 自己学習(1h)

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
セルフマネジメントに向けての看護	1 単位(30)	1 年次 10 月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員)	30 (30)

科目目標

- 1 セルフマネジメントが必要な人の特徴 について理解できる。
- 2 社会生活を継続するためのセルフケア・自己管理に向けた看護について理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
セルフマネジメントを必要とする人の理解と看護の特徴	1 セルフマネジメントが必要な人について理解できる	<p>1 セルフマネジメントの必要な人の特徴 < 1 回 2h ></p> <p>1 慢性疾患の特徴とセルフマネジメント</p> <p>2 セルフマネジメント支援の構成要素 知識・技術、自己効力、QOL</p> <p>3 医療チームの重要性</p> <p>1) 協力体制 2) セルフマネジメントの教育プログラム</p> <p>1 代謝・内分泌に障害のある人の看護 < 5 回 10h ></p> <p>1 糖代謝障害のある患者の看護</p> <p>1) 状態のアセスメント (病態、検査、症状、肥満度、摂取・消費エネルギーの算出)</p> <p>2) 糖尿病患者のセルフマネジメント</p> <p>(1) 食事療法(栄養バランス、食習慣、嗜好品、食品交換表)</p> <p>(2) 運動療法(目的、効果、注意点、生活に則したプログラム)</p> <p>(3) 薬物療法(インスリン療法、経口糖尿病薬)</p> <p>(4) インスリン自己注射</p> <p>(5) 血糖自己測定</p> <p>(6) 合併症予防のマネジメント < * 1 回 2h > フットケア・シックデイ対策</p> <p>3) 患者教育</p> <p>(1) 自己管理の必要性と病状コントロールのための支援</p> <p>(2) 病状変化の把握と日常生活のコントロール状態の評価</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">【校内実習】 1 自己血糖測定 2 インスリン注射 1 回 (2h)</p> <p>2 腎機能に障害のある人の看護 < * 4 回 8h ></p> <p>1) 腎機能に障害のある人の特徴とセルフマネジメント</p> <p>2) 検査・治療を受ける患者の看護 膀胱鏡検査、DIP、PSP、フィッシュバーグ、GFR、腎生検</p> <p>3) 患者教育 (食事療法 薬物療法 安静療法 透析療法 腎移植)</p> <p>3 肝機能に障害をもつ人の看護 < * 2 回 4h ></p> <p>1) 肝機能障害のある人の特徴とセルフマネジメント</p> <p>2) 主な症状に対する看護</p> <p>(1) 肝性脳症 (2) 黄疸 (3) 腹水 (4) 食道静脈瘤 (5) 倦怠感</p> <p>3) 検査を受ける患者の看護 肝生検、腹部血管造影、インドシアニングリーン試験</p> <p>4) 治療を受ける患者の看護 インターフェロン療法、肝動脈塞栓術、硬化療法</p> <p>5) 患者教育 肝庇護療法 (安静保持、肝庇護食、排便コントロール、感染防御)</p>	<p>糖尿病・高脂血症・高尿酸血症・バセドウ氏病の事例にて理解する。</p> <p>腎不全の事例にて理解する。</p> <p>肝炎・肝硬変の事例にて理解する。</p> <p>【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)</p>
セルフマネジメントを必要とする人の看護の実際	2 病状コントロール、社会生活継続のためのセルフマネジメントについて理解できる		

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
健康危機状況における看護	1 単位(30)	2 年次 4 月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 身体侵襲、検査、手術、薬物療法を受ける患者の生命の危険のための救急救命法、合併症予防法について理解できる。
- 2 急性状態および、生命状態の危機の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護について理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
生命の危機状況にある人の理解と看護の特徴	1 生命の危機状態で治療を必要としている人の特徴を理解できる	1 生命の危機状況とは <1回 2h> 1) 生体侵襲・生体反応 2) 急性・重症患者と家族の特徴 2 健康危機状態の特徴 1) 健康危機状態にある人の特徴 2) 健康危機状態にある人への対応の場の理解	
	2 さまざまな健康危機状況と看護の特徴について理解できる	3 救命・集中治療を必要とする人の特徴と看護 <*3回6h> 1) 治療・検査・処置を受ける人への看護 (1) ショック状態にある人の看護 ・ショック・循環障害のある患者の初療時の看護 (2) 熱傷患者の特徴と看護 ・熱傷患者の初療時の看護 (3) 人工呼吸器装着中の患者の看護 ・人工呼吸器装着患者の観察と看護 2) 救急患者の家族の特徴と看護 3) 倫理面への配慮 ・意思決定と看護の役割	
手術療法を受ける人の看護の実際	3 手術療法などの侵襲的治療を受ける人の健康危機状況と看護の特徴について理解できる	1 手術療法を受ける人の看護 <6回18h> 1) 手術療法を受ける患者と家族の特徴 2) インフォームドコンセント 2 手術療法を受ける人の術前における看護 1) 術前のリスクアセスメント 2) 手術前オリエンテーション(術前訓練)と不安緩和 3) 手術の準備 術前処置・全身状態管理(呼吸・栄養) 4) 術前訪問(手術室看護師、麻酔科医、歯科)	
	1) 手術前・手術後までの看護の特徴が理解できる 2) 各術式に伴う看護の特徴について理解できる	3手術療法を受ける人の術中における看護 1) 呼吸・循環・体温を整える 2) 手術中の安全(感染予防と事故対策) 4手術療法を受ける人の術後における看護 1) 手術後の合併症(後出血、深部静脈血栓、呼吸器合併症、イレウス、創部感染、縫合不全 等)とフィジカルアセスメント 2) 術後合併症予防の看護(術後観察・早期離床) 3) 手術後疼痛・苦痛の緩和 4) 手術創のケア(創部の観察とアセスメント) 5) 術後のドレーン管理(胃管・各種ドレーン管理) 5 各術式及び看護の特徴 1) 開腹術 2) 開胸術 3) 骨・関節系手術 4) 腹腔鏡下・胸腔鏡下手術とクリニカルパス	【校内実習】 <1回 2h> 周手術期に必要な看護技術 ・除毛、臍処置 ・フィジカルアセスメント 【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
セルフケア再獲得に向けての看護	1 単位(30)	2 年次 5 月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

1 日常生活の自立と社会復帰を目指し、セルフケア能力の再獲得のための看護について理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
セルフケアの再獲得が必要な成人の理解	1 成人におけるセルフケアの必要性と再獲得について理解する	<p style="text-align: right;">< 1 回 2h ></p> 1 成人におけるセルフケア 1) セルフケア 2) 中途障害者 2 成人のセルフケア再獲得に向けた看護 1) セルフケア再獲得モデル 2) セルフケア低下状態のアセスメント 3 セルフケア再獲得を支援する方法、人的システム (チーム医療)	心理・社会的支援を含む
セルフケアの再獲得を目指す看護の実際	2 セルフケアの再獲得にむけて、具体的な看護の実際について理解する	<p style="text-align: right;">< 2 回 4h ></p> 1 脳血管障害を持つ人の看護 1) 検査を受ける人の看護 : 髄液検査・脳血管造影 2) 侵襲的治療を受ける人の看護 (1) 症状とアセスメント : 意識レベル 瞳孔の観察 意識障害 (2) 合併症の予防と看護 ①術後出血 ②脳浮腫、頭蓋内圧亢進 ③脳血管攣縮 ④脳室ドレーンの管理 3) 社会復帰への支援 4) 積極的リハビリテーション期の看護 <p style="text-align: right;">< * 2 回 4h ></p> (1) 心身の変化 (2) 機能障害と生活動作拡大に向けた援助 ①高次脳機能障害 ②排尿障害 ③平衡感覚障害 ④運動機能障害 ⑤言語機能障害 ⑥嚥下機能障害	脳出血などの疾患事例をもとに理解する * 時間は認定看護師による講義
		<p style="text-align: right;">< 2 回 10 h ></p> 2 循環器機能障害をもつ人の看護 1) 看護上の問題と観察のポイント 胸痛 2) 急性期から回復期にかけての看護 (1) 救命・循環不全の回復への看護 (2) 診断・検査・治療に伴う看護 ①心臓カテーテル検査 ②心電図 ③PTCA・PTCR ④心エコー ⑤ペースメーカ ⑥植え込み型除細動器 ⑦薬物療法 (3) 主な症状と看護 : 不整脈 3) 心筋梗塞患者の心臓リハビリテーション (1) 心臓リハビリテーションの目的・留意点 4) 社会復帰への支援 (継続看護)	急性心筋梗塞、心不全などの疾患事例をもとに理解する
		<p style="text-align: right;">< * 2 回 4h ></p> 3 乳房切除術を受ける人の看護 1) 乳房切除の受容へのアプローチ (1) ボディイメージの変化やセクシュアリティへのサポート 2) 合併症の予防とリハビリテーション (1) 術後リンパ浮腫 (2) 運動障害 (3) 感染 3) 日常生活の指導 補整用品の紹介・説明と形成術	心電図 (12誘導) 体験を含む
		<p style="text-align: right;">< * 1 回 2h ></p> 4 ストーマ造設術を受ける人の看護 1) 受容へのアプローチ 2) ストーマ・サイト・マーキング 3) ストーマの管理とスキンケア 4) 日常生活の指導 社会資源の紹介と活用	<p style="text-align: right;">【評価】</p> 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)

【校内実習】 1 回 (< * 2h >)

・パウチ装着体験

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
緩和ケアを必要とする人の看護	1 単位(30)	2 年次 6 月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 苦痛の緩和について理解できる。
- 2 対象がもつ力を支える援助と望みを実現するための看護について理解できる。
- 3 対象と家族とともに「人が生きる意味」を問う姿勢を養う。

単 元	目 標	内 容	備 考
緩和ケアを必要とする人の理解と緩和ケアの特徴	1 緩和ケアを必要とする人について理解できる 2 人生の最期のときを支える看護における倫理について理解できる	1 緩和ケアと看護 < 5回 10 h > 1) 緩和ケアとは 2) 非がん疾患の緩和ケア 3) チーム支援 4) 看護の特徴 2 エンドオブライフケアの特徴 1) エンドオブライフケアとは 2) 終末期医療 3) 全人的苦痛 (身体的・精神的・社会的・霊的) 4) 死の受容過程 (キューブラ・ロス) 【演習】1回<2h> 終末期にある人とのコミュニケーション 3 人の生命、死と医療 1) 成人期にある人の死 2) 医療における死 3) 尊厳死と安楽死 4 緩和ケアにおける倫理的課題 1) 患者の権利 (アドバンスケアプランニング) 2) ケアにおける倫理的判断 3) 診断と告知	肺がん、白血病などの疾病事例をもとに理解する(放射線療法・化学療法の看護を含む)
緩和ケアにおける看護の実際	1 緩和ケアについて理解できる 2 死にゆく人へのその人らしい看取りの看護が理解できる 3 家族への援助が理解できる	1 苦痛症状へのケア < * 1回 2h > 1) がん性疼痛コントロール 2) エンドオブライフケアにおける苦痛症状への看護 嘔気・食欲不振・倦怠感・腹水・浮腫・便秘・不眠 3) 二次障害の予防(皮膚統合性障害など) 2 肺がんのある人の看護 < 2回 4h > 胸水貯留、咳嗽などによる呼吸困難緩和へ向けた援助 3 白血病のある人の看護 骨髓機能抑制症状などへの援助 4 全人的苦痛のアセスメント < * 2回 4h > 1) スピリチュアルペインとその援助 5 精神心理的苦痛 1) 精神心理的ケアとは 2) 精神心理的援助としてのコミュニケーション 6 社会的苦痛 1) 社会的苦痛とその援助 7 日常性を支える(QOL向上のための看護) 1) その人らしさとは 2) 日常生活への援助 1 希望を支える < 3回 6h > 2 看取りの援助 1) 危篤時の援助 2) 死亡時の援助 3) その人らしい死後のケア 4) 死後の身体的変化と処置 1 家族のニード 1) 家族が直面する危機 (予期悲嘆・グリーフケア) 2) 家族の希望	代替療法を含む 【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
成人の看護過程	1 単位(30)	2 年次 5 月	専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

1 成人期にある人の特徴をふまえた事例の看護過程の展開ができる。

単 元	目 標	内 容	備 考
セルフマネジメントを必要とする人の看護過程	1 セルフマネジメントが必要な人の看護過程の展開ができる	1 セルフマネジメントが必要な人の看護過程の実際 < 7回 14h> 1) 対象および家族の特徴 2) 病態、治療、検査 3) セルフマネジメント支援に必要な情報の整理 4) セルフマネジメントに向けたアセスメント 5) セルフマネジメントに向けた患者目標 6) アセスメントに基づいた看護計画 (1) 指導計画書の作成 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> [校内実習] 1回<②h> 患者への指導の実施 </div> 7) 実施結果・評価	ゴードンパターン 1 に関する看護診断を取り上げる 立案した指導計画をもとにロールプレイングを実施する
健康危機状況にある人の看護過程	2 周手術期にある人の看護過程の展開ができる	2 周手術期にある人の看護過程の実際 < 7回 14h> 1) 周手術期にある人の看護過程の特徴 2) 看護診断と共同問題 3) 潜在的合併症との関連 4) 看護介入の実際 (1) 合併症の予防と早期離床 (2) 苦痛の緩和 ボディイメージ・術後の身体機能変化 (3) 回復を促進するための日常生活の援助 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> [校内実習] 2回<④h> ・手術直後の観察 ・離床の援助・創傷処置 </div>	【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)